

こんにちは！風が秋めいてきましたね。

歴史資料室では今夏もインターンシップを実施し、4名の学生さんが参加されました。期間中は歴史資料室の沿革や仕事を知ってもらい、普段の業務を体験する実習のほか、例年「街歩き」を行っています。これは、街を実際に歩くことで、実は歴史の痕跡はいろいろなかたちで身近な風景の中に存在しているということを感じてもらおうものです。

今回は、その準備をされていて、「へ～！」と思ったことがありましたのでご紹介したいと思います。

アスパム通りのホテル JAL シティ付近に「日本一おいしい水のモニュメント」がありますね。これは、昭和 59 年（1984）に厚生省（当時）の「おいしい水研究会」が行った利き水会で、全国 12 か所の水道水の中から青森市が日本一に選ばれたことを記念し、平成 11 年（1999）に水飲み場として設置されたものです。

このモニュメントの制作者は、ドイツ出身の陶芸・造形作家ゲルト・クナッパーさんです。クナッパーさんは、日本の伝統技術を学ぶため昭和 42 年に初来日し、同 50 年からは茨城県だいがまち大子町に住んで、平成 24 年に亡くなられるまでそこを拠点に世界的に活躍されました。『広報だいが』(2013 年 7 月 No.659)のクナッパーさん追悼特集では、「日本の伝統と自然を愛し東西の美を融合させた作品を作り続けた」と紹介されています。



日本一おいしい水のモニュメント  
(ホテル JAL シティ付近)

実はクナッパーさんの作品は、ここアウガにもあるのです。

ひとつは、新町側入口にある「水の恵みのモニュメント」です。これは、市制施行 100 周年記念事業のひとつとして平成 13 年のアウガ開館時に設置されました。青銅の貝とウナギがちょこんと乗った黒御影石の台座に水が流れ、銀色の女神像が涼しげですよね。クナッパーさんは青森の海に触発されて、貝をモチーフにこのモニュメントを制作しました。



水の恵みのモニュメント  
(アウガ前)

もうひとつは、5階インナーパークの「水時計とカリヨン」です。大きな水車には青森産のヒノキが使われ、水の力で動く時計が鐘の音で時を知らせます。そして、この時計は21世紀の青森市の幕開けをも告げるものとして作られたのだそうです。



水時計とカリヨン  
(アウガ5階インナーパーク)

3つの作品は、どれも青森の水の恵みに関わる作品ですね。

いつもは何気なく通り過ぎる街中の美術作品。時にはゆっくり鑑賞し、作者や作品の背景に目を向けてみるのもよいのではないのでしょうか。

※今回は『広報あおもり』No.861（平成13年3月15日号）、「ゲルト・クナッパー ギャラリー」ホームページなどを参考にしました。